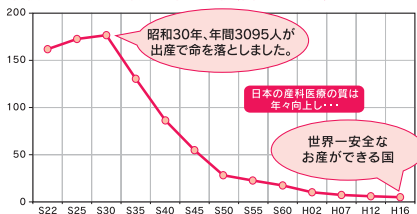


お産は安全なのが当然？

女性にとって、お産は“本当に命がけ”でした。50年ほど前の昭和30年のデータでは、年間3,000人を超える女性がお産で命を落とし、10万人以上の赤ちゃんが亡くなっていました。その理由は、お産のほとんどが自宅分娩だったため適切な医療がつけられなかったとされています。医療施設での分娩が99%になった平成16年には、お産で亡くなった女性は49人、赤ちゃんは5,541人と、世界でトップクラスの安全な国になりました。

昨今、妊婦さんをはじめ一般の方々も、お産は“安全なのは当然”という「安全神話」を盲目的に信じるようになっていきました。そのため、結果が悪いと原因のすべてを医療側に求める風潮があります。産科医のなり手が少なくなったのは、「安全神話」が普及したことと無縁ではないのです。

戦後からの妊産婦死亡率の推移(出生10万対)

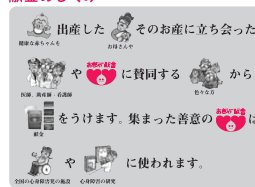


今も女性にとってお産は“命がけ”であることには変わりありません。私たち産婦人科医は今後も、より安心して安全なお産をめざす努力を続けてまいります。

おぎや一献金「おぎや一献金」とは、心身障害児に援助の手を差しのべる運動です。

すべての子どもたちに幸せを…
「おぎや一献金」は、健康な赤ちゃんを出産したお母さんとの運動に賛同された方たちが、心と身体に障害をもつ子ども達に援助の手を差しのべる運動です。皆さまも日本中の産婦人科医師が推進する愛の運動をご支援ください。

献金のしくみ



詳しいことは下記までお問い合わせください。
財団法人日母おぎや一献金基金
162-0844
東京都新宿区市谷八幡町14番地
市ヶ谷中央ビル内
TEL 03-3269-4787
FAX 03-3269-4730
<http://www.ogyaa.or.jp>
E-mail:kikin1964@ogyaa.or.jp

ピンクリボンバッジ運動

ピンクリボンバッジは、乳がん啓発のシンボル。乳がんは早期に見れば治るがんです。月に1度の自己検診と、年に1度医療機関での画像診断を受けることが大切です。NPO法人乳房健康研究会は、乳がんによる死亡率低下を願う4人の医師によって発足した乳がん啓発のための日本初のNPO法人です。乳房健康研究会ではピンクリボンバッジ運動の他、出版、調査、さまざまな啓発イベントを行い、乳がんに関する正しい知識を広め、死亡率低下に貢献する活動を展開しています。あなたもピンクリボンバッジ運動に参加しませんか。バッジを身につけることで、まず自分が乳がんに関心をもち、それを見たほかの人々にも乳がんに関心をもつきっかけを提供することができます。一緒にピンクリボンバッジ運動の輪を広げてまいりましょう。

詳しいお問い合わせは事務局まで。TEL 03-5565-3650
乳房健康研究会ホームページ <http://www.breastcare.jp>